

須賀川労働基準協会 通信(27年3月)

協会のHP <http://www.srkkyo.sakura.ne.jp> もご覧ください

3月を迎えました。3月が年度末という企業は多いことから、年度末は業績のまとめや次年度の計画策定など通常月以上に忙しい方が多いことと思います。当協会もご多分に漏れず、予算の理事会。監督官庁である福島県への次年度計画及び予算の提出など、期限付きの重要な仕事が続いて、少々気が重い月です。

仕事はみんなそうですが、計画と実施。結果のまとめと次回への反省の繰り返しです。3月から4月にかけてはこのPDCAのサイクルを最も身近に感じる時期です。頑張って乗り切りましょう。

<協会の最近の活動報告>

「労災研修会」開催 2月3日(火)

労務労災部会のみなさんが中心になって、年に2回「労務・労災」研修会を実施しています。今回は2回目の研修会として「労災研修会」を開催いたしました。第一部として、須賀川労働基準監督署の矢吹労災課長から労災認定基準等労災保険の基本を教えてくださいました。また、2部の講演として、栃木県足利市で「5S実践舎」を主宰している木村温彦氏より企業における5S活動について講演をさせていただきました。



「安全管理者研修会」参加 2月5日、6日(金) 福島県労働基準協会主催 福島市

福島県労働基準協会では毎年2月と3月に福島県全体の安全管理者・衛生管理者を対象として安全管理者研修会と衛生管理者研修会を開催しております。宿泊研修のため参加者は多くはないのですが、安全管理や衛生管理面で著名な方のお話が聞ける得難い機会でもあります。

今年の安全管理者研修会はコンサルタントの前田啓一先生とOSHSMS評価員の淀川芳雄先生のお話をお聞きしました。また、懇親会では県内各地の安全関係者と懇親し、部屋では各企業の情報交換するなど、研修ならではの付加価値もありました。



安全で行こう、よし!

「KYT基礎4ラウンド研修会」開催 2月10日(火)

「KYT」(危険予知訓練)は企業における事故を未然に防ぐために、身近にできる活動で、多くの事業場で取り入れられております。リスクアセスメントがトップダウンとすれば、KYTはボトムアップで、作業員自身ができる災害防止活動です。

この活動をスムーズに効果的に行うための研修会が「KYT」研修会です。年2回実施しております。

「有機溶剤作業従事者教育」実施 2月18(水)

この「通信」をちゃんと読んでいる方は、あれ、有機溶剤については2月にも掲載があったぞと思われたと思います。今回の有機溶剤教育の報告は単一事業場での教育講習の依頼を受けて実施したものです。内容は一般講習と同様ですが、個別事業場の事情も反映させて、教習を実施しました。前回は若干記述しましたが、有機溶剤中毒予防規則が改正されましたので、かかわりのある企業では情報の収集を怠りなくお願いいたします。



「職長教育」開催 2月24日(火),25日(水)

職長教育は重要な安全教育の一つですが職場を『管理』するという面からは大変有用性の高い講習です。職長は職場のあらゆる課題のキーマンであり、職長のレベルによって、「安全」、「品質」、「能率」、「納期」などの管理がスムーズに行われます。年4回の講習で、26年度は今回が最後でした。



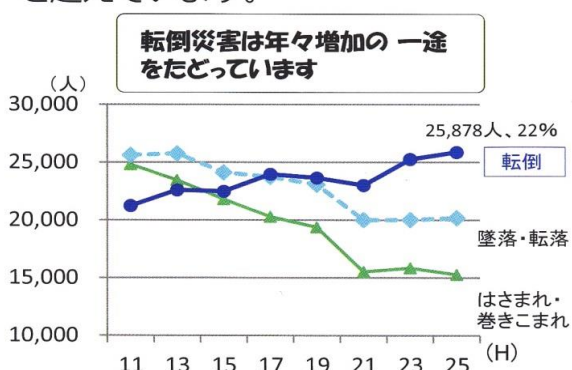
【速報】『理事会』で27年度活動計画・予算承認 3月3日(火)

27年度の事業計画・予算を審議する理事会を開催いたしました。理事会は協会活動の方向性を決める、重要決定機関で、計画及び予算に関する決定は総会ではなく、理事会で決めることになっております。事業計画及び予算は3月中に監督官庁である福島県に報告しなければなりませんので、例年この時期に理事会を開催し審議をいただいております。この度の理事会で27年度の活動計画及び予算を承認いただきました。

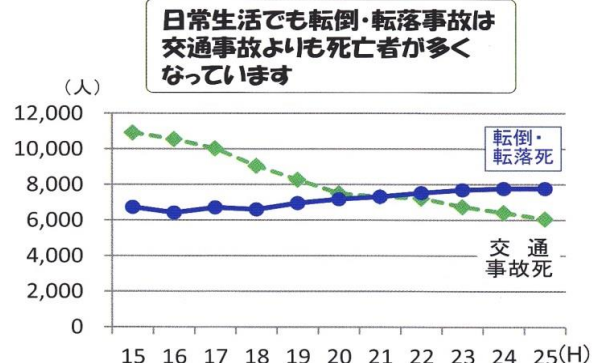
***** 理事会にご臨席いただいた監督署塩原署長提供資料 *****

職場での転倒事故を減らしましょう！

仕事中に転倒して4日以上仕事を休む方は、年間26,000人ほどで、労働災害の種類では最も多くなっています。特に高齢者が転倒した場合は重症化する割合が高く、日常生活での不慮の事故による死因の中でも、転倒・転落死は交通事故死を超えています。



出典：厚生労働省 労働者死傷病報告「事故の型別死傷者数の推移」



出典：厚生労働省 人口動態統計「死因別死亡者数の推移」